



フィリピンで生まれ育ったディオさんは、日本文化に興味をもち、大学在学中に1年間の日本留学を経験。大学卒業後は日本で就職したい夢を叶え、再来日して7年。昨年、日本に帰化^{*}したディオさんにお話を伺いました。

日本での就職が決まった当初、嬉しい気持ちの反面、日本社会で働くことに緊張感もありました。社会人として働くこと自体が初めての経験でした。幸いにも職場の同僚に恵まれ、また、日本文化に触れる時間が長くなるほど心惹かれるものがあり、「きっと、自分はずっと日本にいるんだろうな」という漠然とした思いがありました。

帰化しようと思った理由は、日本にいられる「許可」ではなく「確約」がほしかったから。「日本と運命共同体」と言えば大袈裟ですが、それほど日本が好きになり、この国で自身の生活基盤を築きたい、そう思ったからです。いわゆる就労ビザ(就労可能な在留資格)で働いたおおよそ6年間は、「働くことを条件に日本にいらせてもらっている」という感覚がいつもありました。仕事や在留期間に制限のない「永住権」という選択肢もあったかもしれません。また、外国籍であるよりも、選挙権などの権利を有する日本社会の一員として責任ある生き方を送りたいという思いもあり、日本国籍を取得しました。

^{*}その国の国籍を有しない者(外国人)からの国籍の取得を希望する旨の意思表示に対して、国家が許可を与えることによって、その国の国籍を与える制度(引用:外務省ウェブサイト)。

だからといって、自身の内面が変わったわけではありません。私にはフィリピン人の国民性や価値観などが自分の中に存在し続けていますし、それはこれからも変わることはないでしょう。一方で、日本人以上に日本を好きなのではと思うことも。なぜなら私は生まれてから日本人になったのではなく、自分の意思で日本人になることを選んだのですから。

両国の良いところやそうでないところがわかるからこそ、それぞれの良い点を取り入れて自分の人生を築いていけることを嬉しく思います。今では間違いなく日本もフィリピンも私のホーム(居場所)です。

現在は一般企業に勤務していますが、それ以前から「フィリピン移住者センター(FMC)」で、ボランティア通訳として主に名古屋在住のフィリピン人の生活相談や支援を行っています。日本の生活にも慣れ、精神的な余裕ももてるようになったからこそ、誰かのために手を差し伸べることができる自分を感じています。

やさしい^{易しい} & 優しい^{優しい}
日本語を使おう!

外国人ゲストと意見交換を楽しみました!

～やさしい日本語ボランティア～

昨年10月15日(土)、やさしい日本語ボランティアがNIC地球市民教室^{*}の外国人講師と意見交換をしました。

外国人をはじめすべての人に伝わりやすい「やさしい日本語」で、生活に役立つさまざまな情報を発信している「やさしい日本語ボランティア」。資料の作成や情報発信のために、毎月第3土曜日の午前中にNICに集い、活動しています。

今回はNIC地球市民教室講師のお二人、韓国出身の朴さんとベトナム出身のアインさんをゲストに迎え、「やさしい日本語」で発信してほしいことや、これまで作成した資料について意見やアイデアを聞きました。外国人から見た「やさしい日本語」について、新たな気づきを得たり、ニーズを知ることができました。



改訂版「やさしい日本語防災マニュアル」冊子の作成の様子。朴さんを囲いながら、いずれも真剣な面持ちで意見を交わしました。「きをつける」という表現は、人によって受け取り方が違う。「やってはいけないこと」の方がわかりやすい」など、朴さんの意見を参考に、冊子に載せる文章を練りました。

来日当初は、レストランのメニューにある漢字に苦戦したり、電車の乗り方にも戸惑ったというアインさん。日本のルールや日常会話で使う言葉をもっと知りたいと話すとアインさんに、ボランティアからも「情報発信の必要性を改めて感じた」などの声がありました。

あ?ア亜



やさしい日本語ボランティアが作成した資料の一覧はこちら



^{*}本誌P.6「名古屋姉妹友好都市提携周年事業」の記事を参照。



特に目的があるわけではないけど、ぶらっと来てみたら、気になることに会える場所。このコーナーでは毎回、NICライブラリーを紹介します。

ただ「本が好き」、それでつながった

NICライブラリー ボランティア 斎藤 ヘレンさん



日本に住んで50年。ライブラリーボランティアになってもう20年くらい経ちます。当時、英語講師の仕事辞めるタイミングで、「何か自分にできること」を探していた私は、「NIC OUT & ABOUT "発見!名古屋"」^{*}のボランティアを始めました。この活動をきっかけに、もともと本好きで図書館学にも興味があったことから、ライブラリーのボランティアになりました。

今は電子書籍が豊富で便利な時代。それでも、新着本が入荷する瞬間はやはり楽しいものです。ライブラリーには興味深い本がたくさんあります。私は洋書の寄贈本を選書し、推薦記事を書いたり、書籍情報をシステムに登録したりしています。登録作業は大変!休憩しながらのんびりやっています。今日も10冊ほど登録しましたよ。



素晴らしい仲間との出会いもありました。普段は英語を教えています。ここは唯一、私が日本語を話す決めてしている場所。ボランティア仲間と日本語で交流する時間を大事にしています。

コロナ禍で減った来館者も、少しずつ戻ってきているようです。皆さんとの直接のつながりも、インターネット上のつながりも大事にしながら、本の紹介を続けられたらと思っています。あなたがどんな本を探し、読みたいと思っているのか、リクエストフォームでぜひ教えてください。



^{*}NICのボランティア活動。外国人向けに、名古屋地域の生活・文化や歴史を「やさしい日本語」と英語で、ウェブサイトなどで情報提供している。



港区港楽学区(町内会)運動会 ～気持ちの良い汗をかきました!～

星城大学経営学部4年生 呂 宸さん(中国出身)

你今天吃饭了吗?
ご飯食べた?(中国語)



昨年10月2日に港区港楽学区の運動会が行われ、200名以上の市民の皆さんが楽しみながら汗を流しました。町内会のメンバーとして国際留学生会館(以下「ISC」)から留学生ら14名が参加し、その一人である呂 宸さんに感想を伺いました。

* * * * *

私は2019年3月に来日し、国際留学生会館に入居しました。日本に留学した理由は、環境を変えて異国の地で自分自身の夢や目標を見つめ直したいと考えたからです。

入居して最初の1年間はコロナ禍以前で、ISCでさまざまな国・地域出身の留学生たちがイベント等を通じて知り合い、賑やかに交流を深めることができました。



左から2番目が呂さん



▲港楽三丁目町内会の皆さんと(前列右から2番目が呂さん)

しかし、年が明けて2020年になると、コロナ禍の影響で生活は一変。一気に自粛モードとなり、外出の機会が激減して気持ちが暗くなることもありました。

コロナ禍においても少しずつ人々の動きが活発になってきた昨年の夏ごろ、町内会の運動会のお知らせを耳にしました。私は平日頃から人の役に立ちたいと思っていたので、地域貢献の一助になればと思い、また、太陽の下で思いっきり運動して、気持ちの良い汗を流したく参加を決めました。

当日は曇り一つない秋晴れで、子どもたちも含む地域の皆さんと一緒に、綱引きや球投げをしたり、童心にかえて心から楽しむことができました。

そして何より町内会の皆さんがISCの留学生を町内会の一員として温かく迎えてくださったことが一番嬉しかったです。本当にありがとうございました。

国際留学生会館とは…

NICが2001年から管理・運営している、留学生専用の宿泊施設(名古屋港区)。居室90室のほか研修室や和室、体育室などを備え、100名の留学生が生活できる。日本文化理解講座の開催や各種相談・情報提供、地域住民との交流などを行っている。